

## 四月度月次祭 理事長お話

「月次祭」、おめでとうございます。

春を告げる風が花の便りを届けてくれる季節となりました。

今日から始まる新年度のご神業奉仕に思いを致します時、また一つ新しい自分をお受けさせていただける希望とともに、一層身の引き締まる思いを持たせていただいております。

本日も、私共一人一人のうちに、大光明の輝きをもって生きておられる神様に、心を向けさせていただける喜びを胸に刻みたいと思います。

そして、その神様の「天国の福音」をより一層お受けさせていただきたいのですと、さらには、一人でも多くの方にお伝えさせていただきたいのですという思いを大切に、ご挨拶申し上げたいと存じます。

先般、私共は、聖地・瑞雲郷において、「春季大祭・豊穰祈願祭」を執り行わせていただきましたこと、主神とご一体であられる明主様に心より感謝申し上げます。

教主様には、このたびの大祭にご出座くださり、私共全ての信徒に分け隔てなく温かいお心をもって接してくださるとともに、「夜昼転換」した“明主様の全く新しい救いの福音”についてご教導くださいましたこと、皆さまと共に心からの感謝をもって御礼申し上げたいと思います。

先ほどは、全国の信徒の皆さまを代表して、〇〇さんが感謝奉告をしてくださいました。ありがとうございました。

〇〇さんは、教主様がご教導くださる“明主様の全く新しい救いの福音”を少しでもお受けし、また、この救いを一人でも多くの方にどうしてもお伝えしたいと思われました。

そして、「真善美」配布を力とする「会う、聞く、浄霊」に、また、ご家庭の出来事に際して、その全てに神様の光が届き、神様が現れてくださっていることを信じて、「祈りの言葉」をもって全てを神様に委ねる営みにお仕えさせていただく喜びをご奉告くださいました。

先般の大祭において、教主様は、日常生活のさまざまな事柄における私共の心の反応について、そこに主神からの大切なメッセージがあることに気付く必要がある旨お示しくくださり、次のようにご教導くださいました。

そのメッセージとは、私どもがどんなに至らない存在であっても、主神は私どもを必要としておられるということです。

主神は、ご自身の全く新しい創造をお進めになるために、どうしても私

どもを必要としておられるのです。

だからこそ、主神は今、私どもを赦し、明主様に倣うものとして、大光明輝く天国に立ち返らせ、私どもを丸ごとお受け取りになり、私どもを養い育てながら、全く新しい創造のみ業にお使いくださっておられるのです。

このようにして、主神は、私どもが今も自らの中心に存在する天国でお仕えしている身であることを、明主様を通して思い出させてくださっておられます。

教主様は、このようにご教導くださいました。

本日の感謝奉告を聞かせていただいた私共も、日常生活の出来事全てを大切なご神業奉仕として、明主様と共にあるメシアの御名みなにあって、赦され、救われたものとして神様にお仕えさせていただける全く新しい信仰に、より一層目覚めさせていただきたいと思えます。

さて、心新たに新年度を迎えた今月、私共は、全国全ての布教所に「大光明」のご神体奉斎をお許しいただくこととなります。

昨日、私は、①之光教団本部において、全国の布教所長と共に「大光明」のご神体下付式に臨ませていただきました。

私は、今年の「立春祭」の折、「大光明」「メシアの御名」、そして「祈りの言葉」、この三つの言葉を通して、明主様が今①之光教団の私共に、とても大切なことを告知らせ、迫ってきてくださっているのではないかということをお申し上げしましたが、昨日の「ご下付式」においても、そのように強く思わせていただきました。

先般の大祭の折、教主様は、

明主様は、ご自身が確信されたように、私どもの中には神様が存在し、神様の世界である天国が存在していることを、何としても気づかせてくださろうとして、ご自身の生きざまはもちろんのこと、数々のみ教えやお歌、また、天国のひな型である聖地の建設など、ありとあらゆる手段と方法をもって、眠っている私どもの魂を揺り動かし、目覚めさせてくださいました。

と、このようにご教導くださいました。

私は、このたびのご神体奉斎という極めて重大な神事にも、この明主様のみ心が強く込められているに違いないと固く信じています。

そして、神様が私共に対して、神様の愛と赦しと救いをお受けするように強く臨んでくださっているのではないかと受け止めさせていただいております。

また、教主様は「新年ご挨拶」の中で、明主様のご立教に際してのお言葉をお示しく下さいましたが、本日受付でお渡ししたプリントに記されているように、このたび教主様は、この明主様のお言葉について「光のお言葉」というタイトルを付けてくださいました。

（「光のお言葉」拝読）

私は、ご神体を拝させていただくたびに、明主様が今、この「光のお言葉」をもって私共に“天国に来たれ、”と、強く迫ってきてくださっているように思えてなりません。

ですから、私は、明主様が「光のお言葉」の中で、天国に立ち返るためのただ一つの条件として私共にご明示くださっている「メシアの御名を奉称せよ」ということについて、教主様のご教導を通して少しでも受け止めさせていただきたいと思っています。

私共は今、配布用「真善美」に「世界救世教とは？」という教主様のお言葉を掲載していますが、教主様はこの中で、「メシアの御名」についてご明示くださっています。

そして、プリントにありますように、教主様はこのたび、このお言葉を「誓いの言葉」として改めてお示しく下さいました。

（「誓いの言葉」拝読）

先般の大祭の折、教主様は、「メシアの御名」について、

主神は、創造の始まりの天国において、メシアと名付けられた、ご自身の「霊の体」<sup>からだ</sup>を持つ子供をお生みになって地上にお遣わしになり、一人ひとりの人間としてくださいました。

それは、「霊の体」を持つ私ども一人ひとりを再び天国に迎え入れ、ご自身の子供として、もう一度新しく生まれさせるためです。

そのために主神は今、一生懸命私どもを養い育ててくださっています。

私どもは誰であろうとメシアという御名に結ばれているのです。

天地万物一切は、メシアという御名に結ばれているのです。

と、このように仰せになり、さらに、

私は、私どもがメシアという御名に結ばれているからこそ、すべてのもの

のと共に、赦され、救われているという、この大切な結びを忘れることのないようにしなければ、と思っております。

と、お導きくださいました。そして最後に、

主神は今、私どもがメシアの御名<sup>みな</sup>にある赦しを信じ、その赦しを受け入れるか否か、そのことを一人ひとりに尋ねてくださっているような気がいたします。

と、ご教導くださいました。

私は、自らのうちにある神様のご存在と赦しのみ旨に全く気付かず、神様に対していつも愛と赦しと救いを求め続けて一喜一憂を繰り返してきた自らの姿を、そして、そんな姿の私を神様が赦しをもってお使いくださっていることを、あらためて本当に申し訳ないことであると思わせていただきました。

ですから、私は、神様が愛と赦しと救いのみ心をもって、私達を天国に迎え入れるために呼び掛けてくださっている「光のお言葉」を、全人類の代表であるという自覚をもって、明主様と共にあるメシアの御名にあって、「もう一度新しくお受けさせていただきたい」と強く思わせていただきました。

そして、日常生活の事柄全てにおいて、「祈りの言葉」による「想念の御用」をもって、この神様の呼び掛けにたとえ少しでもお応えさせていただく道を、私は一生懸命歩ませていただきたいと思います。

私は、このたびのご神体奉斎に込められた神様の大切なメッセージについて、このように受け止めさせていただきましたことを、本日の「月次祭」において、感謝と申し訳なさりと畏れ多さの心を込めて神様にご奉告させていただきました。

私共は、全国に「大光明」のご神体をお許しいただく今月、教主様の「新年ご挨拶」とこのたびの大祭におけるご教導をより一層心の中心にお受けし、み教えの神髄、つまり、明主様が本当にお伝えになりたいことに少しでも目覚めさせていただきましょう。

そして、「大光明」の輝きのもと、「メシアの御名」に結ばれたものとして、心新たに新年度からのご神業奉仕に、大いなる喜びと希望をもって努めさせていただきましょう。

最後に、先般の大祭での教主様のお姿に倣い、全国の皆さまと共にという思いで、ご一緒にお祈りさせていただきたいと存じます。

“明主様と共にあるメシアの御名<sup>みな</sup>にあつて、父母先祖の方々と共に、万物と共に、主神の赦しをお受けさせていただきます。 “このみ恵みがすべてのものに分け与えられますようお使いください。お仕えさせていただきます。 “吸う息吐く息のうちに、み心を成し遂げてくださいますように。主神に委ねさせていただきます。”

本日も、こうしてご一緒に、明主様にお仕えさせていただいておりますことに感謝申し上げ、新年度からの皆さまの日々のご神業奉仕に大いなるみ恵みと安らぎを賜りますよう祈念しまして、「月次祭」の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。